

第6回 買物公園のあり方検討会議 会議録

日時	令和5年12月19日(火) 18時30分～21時00分
場所	旭川市役所総合庁舎 7階大会議室A
出席者	<p>参加者 11名</p> <p>有馬 準氏, 久保 竜弥氏, 佐藤 真紀恵氏, 四戸 秀和氏, 鈴木 伸治氏, 高橋 遼太郎氏, 長尾 英次氏, 中田 崇太氏, 蜂須賀 咲来氏(オンライン), 三浦 詩乃氏, 山田 直人氏</p> <p>オブザーバー 4名</p> <p>北海道警察旭川方面本部交通課長補佐 中川 隆博氏 国土交通省北海道開発局旭川開発建設部 道路計画課道路調査官 秦 地大氏 北海道上川総合振興局旭川建設管理部地域調整課企画調整係長 後藤 恵美氏 旭川市土木部次長 鎌田 昭範氏</p>
欠席者	草野 常幸氏, 鈴木 美央氏, 林 亜優氏
会議資料	<p>資料: 第6回 買物公園のあり方検討会議</p> <p>資料別紙: (仮称) 買物公園エリア未来ビジョンVer1-概案- 参考資料: 買物公園未来ビジョンの「エリアの目指す将来像」について(案)</p>
会議の公開・非公開	公開
傍聴の数	4名(報道2名)
会議内容	
1 開会	
2 議事	
(1) エリアプラットフォームについて	
事務局	(事務局より, 資料P1・P2に基づき, 説明を行った。)
副座長	<p>会議資料において, エリアプラットフォームの初動期から成長期, 成熟期のイメージが示されており, ゴールの成熟期の例として, 都市再生推進法人との記載があるが, エリアプラットフォームが成熟した結果, この法人に認定されれば, 様々な権限を持てるようになる。</p> <p>人材育成に関する助成や, ハードの投資等に係る都市再生整備計画を提案し, 市が予算を獲得することにつなげていくことなどもできる。</p> <p>将来的には, このような組織まで成熟していくというように, ゴールを高く設定しておくことはとても重要である。</p>
事務局	都市再生推進法人については, 都市再生整備計画を提案することもで

	<p>きる、公的な役割も担うことができる組織であることから、エリアプラットフォームがそのような組織になっていくことで、エリアの更なる活性化につながっていくと考えている。</p> <p>今後、皆様と市で協力して、実装性も高めていく中で、そのような組織に成熟していくことができれば良いと考えている。</p>
座長	<p>「ヒト」、「モノ」、「カネ」とよく言われるが、人材、ノウハウ、財源が安定的に蓄積されていけば、都市再生推進法人というゴールも実現できてくるものとする。まずは小さく始めて、徐々に、それらを皆様に蓄積していくという流れであると理解いただければ良い。</p>
(2) 未来ビジョン（概案）について	
事務局	事務局より、資料別紙P1～P12に基づき、説明を行った。
座長	<p>事務局から説明を受けたが、ゾーン別のビジョンのうち、ゾーンⅣの「7～8条周辺・常磐公園」について、このゾーンにある商店会において、商店会の意見を取りまとめ、案を作成していただいたところである。</p> <p>商店会を代表する参加者の方から、その案をお示しいただきたい。</p>
参加者	<p>商店会の意見のとりまとめに当たっては、商店会員にアンケートを行い、「商店会のあるエリアが10年後にどのようになると良いか」、「社会実験を行うときに、どのようなことをしてみたいか」、「社会実験で旭川市にどのようなことをしてほしいか」の3つの質問をした。</p> <p>その結果として、「人との繋がり感」、「無防備になれる安心感」、「受け入れられる感」、「自然との共存感」という4つのビジョンが浮かび上がり、全ては当商店会のスローガンである「つながる街と人と日常」という言葉に集約されることが見えてきたところである。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが遊べる空間がある。 ・店側から子どもたちに遊び道具を貸し出し、遊んでもらう。 ・禁止事項のようなNG看板ではなく、例えば、「ごろごろしてください」、「ドックポールがあります」などのOK看板が増えると良い。 ・囲碁や大きなオセロなどで、その場のコミュニティが形成されるようなスペースがある。 ・ポップアップショップができる仮設のキオスクのようなものがあり、かつ、「本日ポップアップ」、「本日のライブ」などのように、期間が短くてもできるものであれば良い。 ・例えば、スケボーをすることが可能な日や曜日を限定するなど、あるものを排除するのではなく、曜日や時間帯など分け、様々な人が使える形態に整えていくことができれば良い。

などの意見があった。

このような風景をつくっていくために、商店会としてできることと旭川市にできることを分けた結果、

商店会としてできることは、

- ・店舗間で情報共有をして、安心感をつくっていくこと。
- ・日常の遊び道具の貸出
- ・常設物の日常的な清掃や管理
- ・キッチンカーやポップアップショップなど、日常的な出店者のブッキング対策等の管理を行い、新たな来街者の誘引や、出店者に買物公園での出店イメージを持ってもらうこと。

などが挙げられたところである。

また、旭川市又はエリアプラットフォームでできることとしては、

- ・ルールの範囲内であれば、例えば次の日には使えるようにするなど、申請を簡易化することにより、施設の日常的な利用を可能にすること。
- ・情報共有、丁寧な仲介、クリエイターによるリノベーションなどによる空き店舗対策
- ・時速6キロメートル以下で、荷物を運ぶことができ、冬でも乗ることができる電動カートの走行

などが挙げられたところである。なお、電動カートに係る意見は、人通りが少ないことや高齢者が多いことに危機感を持つ、8条通にある店舗から出た意見であり、荷物を運ぶことができ、冬でも乗ることができるということが重要なポイントである。

さらに、やはり何かを行うためには必ず予算が必要となってくることから、必要な予算付けををしてほしいという市への希望もあった。

ここまで、当商店会の意見を報告させていただいたが、当商店会だけでできていても意味がないと思う。当商店会はエリアや組織が小さいことから、できることや、やりやすいことが多いが、買物公園全体でできないと意味がない。そのためにあるのが本検討会議であり、買物公園の未来ビジョンとしては、誰もが関わることができ、私たちが自分たちの手で作ることができるような環境が整っていくことが重要であると思う。

時代が変われば、必要なものも変わってくることから、その時代の人たちが試行錯誤しながらつくっていけるように、10年後や20年後に、「あの頃はよかった」などと嘆く大人の姿を見るのではなく、自分たちの世代はこうにしていこうと動くことができるよう、まずは基盤を整えること、必要に応じてルールを変えること、人を育てることなどに

	<p>力を入れていかなければならないと思う。</p> <p>今後、エリアプラットフォームを構築し、社会実験をしていくこととなるが、行政としても、道路の使用に係る申請の簡略化や規制緩和、商店街の振興、地域づくりなどにかかわる部署を一本化していくことも必要であると思う。同じ買物公園に対しても、経済交流課や地域振興課など、関わっている組織が多いことから、それが一つになることにより、もう少し分かりやすく、動きやすくなると思う。</p> <p>それに対して、民間ではエリアプラットフォームが窓口となって、各ゾーンの実働体制の構築をしていく。当商店会のように動くことが難しければ、旭川デザインプロデューサーや旭川市立大学のゼミ生などにも協力を得て、エリアプラットフォーム自体が主導で動かしていくゾーンとしていくなど、実働体制の構築をしっかりと行っていく必要がある。</p> <p>来年の社会実験では、このようなことを一部でも、実現させていきたいと考えている。</p>
参加者	<p>今の説明に、若干の補足をさせていただく。</p> <p>必ずしも当商店会だけではなく、買物公園にある建物の大きな問題点として、昔の長屋づくりのように、店舗同士が隣り合わせで隙間なく並んでおり、例えば、ある建物についての所有権を隣の店舗と2分の1ずつ所有しているということがとても多い。</p> <p>このことが、新たに出店する際に、金融機関からの融資を受けられない原因となっていることも考えられ、これまでチャレンジできずに終わってしまったというケースも多いのではないかと思う。</p> <p>先ほど、「丁寧な仲介」という話が出たが、当商店会は、小さな組織であり、みんなでつながっているということがキーワードになっており、普段から、とにかく近隣の事業者と仲良くすることを実践している。普段から良好な関係を続けることにより、様々な情報を共有でき、例えば跡取りがいない事業者が、所有権を2分の1しか持っていないという問題を抱えていたとしても、次の方を紹介するときに、その2分の1をどうにかすることにより、金融機関からスムーズに融資を受けられるということもあると思う。</p> <p>今後、エリアプラットフォームが構築され、例えば、不動産のマッチングを行っていくとしても、それ自体はありがたいことなのだが、エリアプラットフォームでは、踏み込んだことはできない部分もあると思う。そのようなときに、例えば、引退を希望する人がいれば、普段から、良好な関係でつながっている我々自身が、エリアプラットフォームなどへ情報の橋渡しを行うことにより、新しい事業者が参入できるということも</p>

	<p>できてくると思う。</p> <p>丁寧なお付き合いをすることにより、買物公園に多くある問題を抱える建物などについても、例えば、自分が商売を辞めた後にどのようにしていきたいかという話なども、普段からすることができる。</p> <p>市や商工会議所にはできない、かゆいところに手が届くような橋渡しが、プラットフォームの中における、我々の役割になると考えている。</p>
座長	<p>事務局の概案の説明や、商店会からの案の説明を受けて、皆様の御意見を伺いたい。</p>
参加者	<p>「買物公園エリアの問題点や課題」に、「魅力的な個人店やスポットが認識されていない」と記載されているが、このように言い切ることはないと思う。魅力的なお店はあり、商売は成り立ってはいるものの、そのお店が持続的に運営できるかという差し迫った問題がある。そこに対して、プラットフォームの体制として、まずは情報を集約する場所が必要である。人や物などの情報が集まってくる場所をつくり、そこから様々な作戦を考えていくということが、このプラットフォームの役割や位置付けとして必要なことであると思うので、そこを具体的に、一步踏み込んで表現できると良い。</p> <p>前段の未来ビジョンの説明の部分で、「ライトな変化」の記載にアンダーラインが引かれているが、空き家の問題などは難しい問題であり、「ライトな変化」という次元ではないことから、アンダーラインが引かれている意図が分かりづらい。目の前にある課題に対してしっかりと向き合っていく体制を取ることにについて、もっと期待を持てるような言葉で語られた方が良い。</p> <p>エリアの目指す将来像について、私は、「「多様な自然・文化の舞台 買物公園／公園から日常を創造するまち」、「わたしたちの原っぱから」、「わたしたちの遊びがつながる公園とまち」という案を提案した。これまでの議論や過去の経緯を調べてみたときに、買物公園の創設当初とリニューアル時において、使われている言葉が違うということを感じた。創設当初は、「人間性の回復」や「広場」などといわれていたが、リニューアルの際には、「バリアフリー」や、「イベントがしやすい」などというように言葉が変化していた。私は、設立当初の考え方がとても重要であると考えており、そこに現代的なキーワードとして、「多様性」を受け止めるという意味の言葉を追加すると良いと思う。</p> <p>また、「日常の舞台」のようなキーワードが良いと思っている。これまで、イベントは非日常的なものとして行われてきたが、「自分たち」、「私たち」という言葉のように、自分たちが買物公園を使う生活やライフス</p>

	<p>タイルのようなものが、様々な形で展開されていく場所になるというような言葉が、今の時代にはなじみやすいと思う。</p>
座長	<p>問題点や課題の部分については、今の御指摘のとおり、しっかりと記載した方がよい。それによって、将来の長期的なミッションも変わってくる部分がある。</p>
参加者	<p>エリアの目指す将来像について、私は、「個性、主張を大事にする場所」、「チャレンジできる場所」、「旭川カルチャーの発信地」という案を提案した。これまでの会議で発言してきたが、「チャレンジできる」ということは外したくないという考えである。また、個性や主張を大事にすることができている場所であるということは、言い換えれば、しっかりとした受入体制があるということだと思うので、そこは今後、大切にしたい方がよいと考えた。</p> <p>それらのものが合わさることにより、買物公園ならではの色が出て、それらが、自ずと外に発信されていくという思いやイメージで提案した。</p>
参加者	<p>当商店会のスローガンは、「つながる街と人と日常」であり、そのほかにも、「私の呼吸ができる場所」、「まちのリビング」などのキャッチコピーがあるが、エリアの目指す将来像についても、そのくらい緩いものでも良いと思い、私は、4つの案を提案した。</p> <p>「一歩、進むたびに新しい景色に会える」という案は、「歩いて楽しい」という一歩と、「エリアプラットフォームができて、体制が整うことにより一歩ずつまちづくりが進んでいく」という2つの意味を込めた。</p> <p>「今日も明日もいきたい場所がある」という案は、買物公園が、日常的に、何もなくても行きたい場所となり、それが生活の一部であるというようなイメージで提案した。</p> <p>「1.5km、ぜーんぶ わたしの庭。」という案は、「私の」ということにより、自分のものであるという感じが出すことができ、他人事ではなく、買物公園を自分の本当の居場所であると思ってもらえると考えた。また、「庭」については、親近感を込めるというイメージである。</p> <p>「一人ひとりが街の風景になる」という案は、日常的に人がいて、その人たちが何かをしていくことでまちの風景になるという意味を込めて、まちをつくっていく人や歩く人が風景になっていく、そこに人が集まってくることを理想として提案した。</p> <p>以上、4つの案については、方向性は全て一緒であるが、それぞれ表現を変えているものである。</p>
座長	<p>「私が」、「私たちが」という、アクションにつながるようなイメージはとても良いと思う。</p>

副座長	<p>これまでの意見から、「日常」、「私が」、「チャレンジできる」、「多様な」など、皆様が大事にしているコンセプトが見えてきたところである。だが、それをそのまま足し合わせて使うと、どこにでもあるようなフレーズになってしまうことから、参加者のうちのどなたかが考案した印象に残るようなフレーズをしっかりと使っていく方が良いと考える。</p>
参加者	<p>エリアの目指す将来像について、私は、「会いたい人がそこにいる 行きたいところがそこにある 何かをしても何もしなくても 日常も特別もある買物公園」という案を提案した。</p> <p>「日常」と「特別」という言葉を使った。駅前の商業施設に行くことは、本来、特別なことだと思うが、駅前に多く人が集まっているというデータもあり、それが日常になってしまうということも考えられることから、両方の言葉を使ったところであるが、趣旨としては、「日常」という感じを表現したかったものである。</p> <p>「人」についても、例えば、商店街同士をつないでくれる人や、同じ商店街の店舗の相談に乗ってくれる人など、日常の中で人がつながっていることがとても大事であることを本検討会議を通じて改めて考えたところであり、未来ビジョンにおいても重きを置きたいと考えた。</p> <p>また、将来像については、雰囲気を大事にして、あまりインパクトがない方が、逆にインパクトがあるのではないかと考え、あえて曖昧な表現にした。</p>
座長	<p>エリアの目指す将来像については、この場で決めるということではなく、いただいた意見を参考に、次回の会議までに事務局で案を整理するということが良いか。</p>
事務局	<p>将来像については、本日、いただいた御意見や、事前に提出していただいている御意見の中にも、参加者の皆様の思いを盛り込んでいただいているところであり、これらの御意見をもとに、可能な限り、多くの要素を盛り込んだ上で、新たな案を作成し、次回の会議までに提示させていただきたい。</p>
座長	<p>皆様の御意見においては、「自分たちでつくっていく」というアクションにつながるようなイメージなど、共通する部分もあることから、ぜひ、皆様の意見を反映させた形で整理してもらいたい。</p> <p>次に、「未来ビジョン（概案）」の後半部分について、事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>事務局より、資料別紙P13～P20に基づき、説明を行った。</p>
副座長	<p>買物公園については、長さもあることから、ゾーンを分けてコンセプトをつくっていくという考え方は、以前からあったものであり、ゾーン</p>

	<p>の単位についても昔ながらのものだと思うが、この部分については、それぞれのゾーンに関係する皆様から、ぜひ、御意見をいただきたい。</p> <p>回遊性については、ゾーンごとにまっすぐにつないでいくということについて、そのような回遊性が、それぞれのゾーンにとって良いのかということが気になっている。</p> <p>昔から、駅前から北の8条通りまで、いかに回遊性を向上させていくかという考え方で進めてきたところであるが、それが難しいということが徐々に分かってくる中、今回は、ゾーンごとに個性を出して、それぞれに滞在空間を設置している。</p> <p>例えば、ゾーンⅠは駅を利用する人が集まるということや、ゾーンⅡはバスの交通結節点であるということが示されているが、駅やバスの交通結節点からどのように人を引き寄せるか、また、ゾーンⅣでいえば、市役所を訪れた人や、市役所の職員にどのように足を運んでもらうかなど、リアルな回遊性も考えながら、それらの回遊性とそれぞれのゾーンのコンセプトの描き方との整合性を図ることができれば良いと考える。</p>
参加者	<p>回遊性については、要約すると、移動のサポートを指していると思うが、それが目的になってしまっており、「将来像の実現に向けた取組」の1番目に書かれていることに違和感がある。最も大事なことは、今、すでにある店舗が持続的に続いていくことと、そこに魅力を感じた人たちが次々に出店してくるという状況をまずつくっていくことであり、そのように集まってきた人たちが公共空間をどのように使うかという順序にした方が良いと考えている。</p> <p>エリア全体の「ビジョン実現に向けた取組方針」について、「(1)滞在機能強化・回遊性向上」と「(3)チャレンジできる仕組みづくり」は1つにまとめて考えた方が良いと思う。これらの内容は、ソフト的なプログラムや仕組みづくりのようなことだと思うが、街区についての内容と公共空間についての内容を分けるのではなく、そこをしっかりと連動させることにより、例えば、どのようなお店があり、そこにはこのような人たちが来ているから、このような公共空間の使い方があり、また、そこに足りていないクオリティを向けるという考え方ができてくると思う。</p> <p>また、「(4)ブランディングされた街並み形成」は空間に関すること、「(2)効果的な情報発信」は人や情報の集約に関することである。集約されることにより情報発信が豊かになると思うので、「拠点をつくって運営すること」、「ハード的な基盤を整えること」、「ソフトのプログラムをつくっていくこと」の3つに整理すると分かりやすいと思う。そうすることにより、例えば、空間に関することは建築家協会にサポートしてもらうな</p>

	<p>ど、サポートする側からも見えやすい。また、例えば、ソフトプログラムに関しては、デザイン創造都市のデザイン経営を行っている人たち、大学の経済学部の人たちなどにもしっかりと関わってもらえると思う。そのような人たちを巻き込みやすいように整理した方が良い。</p>
参加者	<p>滞在空間とは何なのか。それぞれのお店に人が来れば、そこが滞在する場所になる。例えば、何もない、ただ座っているだけの場所という意味での滞在空間であれば、旭川はれての周辺は、外に座っている人が多いイメージがあるが、あまりぴんとこない。</p> <p>また、5～6条周辺について、回遊性の創出という視点でいえば、ふらりーととフードテラスと旭川はれて屋台村の間では、回遊性はつくられていないと思う。フードテラスには、人気のある食堂などはあるが、空き店舗が多く、入れ替わりも激しく、うまく活用されていないと感じる。一方、1階の休憩ができるスペースで滞在されている人をよく見かけることから、そのような意味では、滞在空間になっていると思う。</p> <p>旭川はれて屋台村については、最近、夜遅くまで営業している店舗もあり、面白いと思っているところであるが、あまり魅力が伝わっていないと感じるので、もっと知ってもらえることができれば良いと思う。いずれにしても、回遊性がつくられていない現状があると思う。</p> <p>さんろく街のエリアは広く、店舗も多いことから、それぞれ目的を持って訪れる方もいて、さんろく街を訪れる足かけでふらりーとを使っただけということもあるが、5条界限での人の連続性については感じられない。</p> <p>6条に至ってはなおさらであり、6条には広い駐車場があるが、そこに駐車している方という声もあまり聞こえず、どのような方が駐車しているのか、よく分からない。</p>
座長	<p>会議資料の「滞在空間（ウォークポイント）」について、事務局から、どのようなイメージか説明していただきたい。</p>
事務局	<p>詳細については、後ほどの議題である「社会実験（案）」において説明させていただくが、滞在空間については、まず、「滞在空間」という言葉と「ウォークポイント」という言葉のどちらが良いかということがある。そして、ゾーンごとに、どこにあると良いか、どこにあることがふさわしいのかなどについては、ぜひ、皆様の御意見を伺いながら、一つの形をお示しして、必要に応じて修正を行っていきたいと考えている。</p> <p>大規模な駐車場のようなスペースがあること、旭川はれて屋台村には、はれてガーデンという半公共的な空間があること、また、フードテラスには1階の部分に自由に入出りできる空間があり、滞在している方がお</p>

	<p>り、たまり場のようにになっている部分があれば、そのような機能を拡大しながら、又は更に使いやすい空間にすることで、そこを目的としていただくというイメージは持っていた。</p> <p>また、場合によっては、ストリートダンスや、通常であれば使用できないスケートボードなどについて、管理を行いながら、道路空間の一部を使用できるという可能性についても考えている。</p>
参加者	<p>それぞれのゾーンの魅力を高めて、人に来てもらえるような場所にするということも大事であるが、JR旭川駅にはバスや電車の乗換えのために中高生が多くいるように、交通の結節点があるからこそ、そこに人がいるということもある。</p> <p>車の運転ができるようになれば、自分で好きなところに行くようになり、あえてまちなかまでは出てこないことになることから、それぞれのゾーンの魅力や特徴付けをすることと、二次交通を充実させることは、やはり車の両輪であり、両方を進めていかなければならないと思う。</p> <p>旭川の場合は、駅の周辺に多くの機能が集中してしまっており、中高生しか行かない、大型商業施設にしか行かないということになってしまふ。バスターミナルをつくるとなると大規模になり過ぎるので、バスの乗換えをもう少し便利にすることや、自転車で来た人とのゾーン分けなどを明確に整理して、分かりやすく表示していくことが重要であると思う。</p>
副座長	<p>滞在空間については、どこに置くのかを決めることも大事なのだが、各地の社会実験やウォークアブルなまちづくりなどを見ると、常に滞在空間を置かなくても、可動させていれば良いという自在性を担保できる組織力が必要であり、それらについては、エリアプラットフォームやエリアプラットフォームのマネジャーが介在して進めていくということが考えられる。</p> <p>また、皆様の議論を聴いていて、未来ビジョンでは、空間の使用に係る規制緩和にかかわることや、沿道の建物と屋外の空間も一体的に使うことでより魅力的になるということなど、滞在機能の機能や方針を示した方が良いと改めて考えた。</p>
参加者	<p>未来ビジョンについては、ゾーン別にビジョンが示されており、買物公園において長年営業している店舗や、新たに参入している店舗などもこれから一緒に取組を進めていくためのスタートであり、この先もブラッシュアップしていくものであるということが分かった。</p> <p>ただし、一方では、深掘りができていないという部分も感じたところであり、建物の所有権が分かれているなどの問題もあり、入れ替わりの</p>

	<p>激しい買物公園の中で継続的に事業を行ってきた事業者の現状や今後のあり方の部分が、このビジョンでは伝わってこない。買物公園の歩行者天国とともに歩みながら長く営業している店舗や、本検討会議に時間を割いて関わっている事業者の店舗の名称をビジョンに入れるなどの配慮があっても良いと感じた。</p> <p>3条～4条周辺のゾーンⅡにおいて、「オフィスとエンタメ、歴史と未来を結ぶ買物公園のセンターゾーン」というタイトルがあるが、このゾーンで事業を行っている者がどのような立ち位置で、どのような捉え方をされるのかについて疑問が残る。また、図面についても、マークがどのようなことを表しているのか分かりづらい部分もある。</p> <p>買物公園はエリアがとても長く、条ごとに特徴付けを行うことやグルーピングを行うことにより魅力を発信していくことは良いアイデアだと思うが、実際はハードルが高く、難しいことであると思う。</p> <p>駅前の百貨店が閉店するなど、買物公園の衰退が進んでいる経緯について、長く事業を行っている方からよく話を聞くが、良い時代と悪い時代を歩んできた方の意見はとても大切であると思う。</p> <p>そのような中で、先日、この検討会議の参加者同士の数名で、本日の会議に向けた話し合いを行ったが、このようなことから、みんなが自分事として考えるようになり、まちが良くなっていくということもあると思う。先ほども参加者から、商店会の意見についてのプレゼンがあり、プライベートな時間を割いてつくられた資料であるが、とても分かりやすいアウトプットで、とても分かりやすい説明と資料であった。</p> <p>このように買物公園にかかわっていく人たちが中心となり、エリアプラットフォームが立ち上がっていくことになるが、今後は、エリアプラットフォームの中でも、コアとなるメンバーを結成することができて、そこを中心として動くことができれば、未来は明るいと感じた。</p>
座長	<p>未来ビジョンの概案については、いただいた御意見を反映させながら、もう一度ブラッシュアップしていきたい。</p>
(3) 社会実験（案）について	
事務局	<p>事務局より、会議資料P4～P7に基づき、説明を行った。</p>
座長	<p>社会実験を行う期間についても、現時点での考えを説明いただきたい。</p>
事務局	<p>滞在空間の設置については、令和6年の8月中旬から1か月程度の期間とし、そのうち2週間程度の期間において、合わせてモビリティによる社会実験を考えている。</p>
座長	<p>この案については、1条周辺、4条周辺、7条周辺に3つのスポットをつくり、その間をつなぐモビリティを運行するというイメージである</p>

	<p>が、皆様の御意見をいただきたい。</p>
参加者	<p>事務局をお願いしたいことが2つある。</p> <p>1つ目は、モビリティありきで進んでいる気がするので、それをやめてほしい。電動キックボードなどモビリティの話ばかりをしているように感じるが、それほど必要なものか疑問である。買物公園エリアの移動については、昭和通りと緑橋通りなどを周遊するようなバスでも良いと思う。個人の移動に委ねることはリスクが高く、費用対効果がどれだけ大きいかについても分からない中で、最初から電動キックボードをやってみようという感じで進んでいることが気持ち悪く、これありきで進むことはやめてほしい。</p> <p>2つ目として、買物公園の中にも活用されていない土地や建物、廃屋などが多くあると思うが、それらがどれだけあるのかと、除却できない、利活用できない理由が全く分からない。使われていない建物が残っていると危険でもあり、今後、活用されていない土地をどのようにしていくかということが重要になってくると思う。活用されていない土地はなぜ活用されていないのか、どのような状況で、なぜ、活用できないのかについて、所有者の問題もあると思うが、それらを洗い出してほしい。そうすることにより、社会実験に向けての手がかりをつかむことができたり、アクションできることもあると考えるので、ぜひ、お願いしたい。</p>
事務局	<p>モビリティの導入については、モビリティありきということではなく、第1回目の会議から議論を積み重ねてきている中、買物公園を含む買物公園エリアに来街を促したいということがある。駅前で滞在している人はいるが広がり生まれていないことや、北側にいる人は、南の方向まで歩いているという調査結果も出ている中、まずは買物公園エリアに来ていただき、そして、そこにいてもらうために滞在できる空間をつくるのが社会実験の狙いである。</p> <p>また、調査結果の一つとして、300メートルを超えるような広がりのある移動があまり生まれていないという部分もあることから、その空間をつなぐ手段として、買物公園の中でモビリティを活用したいということがある。電動キックボードについては、現行の法令の規制においても、一般道路を走行できるものであり、例えば市民の方をはじめ、観光客の方に利用していただくことも想定し、買物公園以外の道路の部分で走行することにより、その利用状況などを確認したいと考えている。</p> <p>既存の空地や建物については、仮に調査を行った場合についても、その出口をどうするかという問題もある。本市の別の事業において、土地や建物の専門家から聞いた話では、例えば、1階が空き店舗で2階に</p>

	<p>大家が住んでいる場合や、テナントビルに店舗が入らないという場合に、それぞれの事業者や所有者によって様々な理由があるとのことであり、有効な手だてが立てづらい状況であると考えている。だが、今後、エリアプラットフォームをつくり、取組を進めていく中では、全数の調査は難しいとしても、人と人のつながりや、所有者や事業者のつながりの中で、空地や建物の情報も集められるとすれば、それらは有用な情報の一つになると考えている。</p>
参加者	<p>空地や建物の調査について、出口はまだ見えるものではないと思うのが、入口に立っている段階で何も見えないところを進むことと、一定程度の情報を持っている中で出口を模索することは違うと思うので、まずはきっかけの部分を与えてほしいと思う。</p> <p>繰り返しになるが、モビリティの導入については、市の考えであり、それを行いたいかどうかについて話をするのがこの場なのではないのか。多数決を取るわけでもなく、導入することが前提で進んでいる感じを受ける。この会議で何かを決めるということであれば、社会実験を実施するかどうかを委ねてほしいと思う。</p>
参加者	<p>今の意見に強く同調したい。</p> <p>普段、買物公園を歩いている人は高齢者が多く、そこにモビリティが入るのは、おそらく危険だと思う。そもそも、モビリティについて、事業者全体にヒアリングをしても、導入した方が良いという意見は比較的少数であり、コンセンサスが得られないと思う。私も基本的には反対である。モビリティの導入を前提に進めるのではなく、フラットな状態での話し合いをしっかりとすべきだと思う。</p>
副座長	<p>モビリティについては、人によって言葉の意味が違うののだが、ここでのモビリティは、新しい移動手段を入れるという意味であると考えている。モビリティありきで考えている、推進しているというように見えてしまうことについては、どうしても市側の事情があるのではないかと。</p> <p>今回、新しい手段を導入する、しないにかかわらず、このエリアでの新しい移動手段をどうすべきかについては、しっかりとしたプランを立てなければならない。そのようなプランを立てるというゴールがあり、移動手段をどこに通すことが良いのかという議論を皆様で行った上で、このように通してみたいという結果に対して、市民の方の需要があるかを実験するということが本来の手順であると考えている。</p> <p>その状況が見えないまま、ここを通したいという強い線が引かれているように見えることから、この場での合意が難しいのではないかと。議論を行っていくためのワーキングのようなものがきちんとなければ、地元</p>

	<p>から理解を得るのは難しいと考える。</p> <p>電動カートに関しても、ゆっくり走るということで、導入を求めるとい声もあると聞くが、旭川市において、夏に実験をやるときの歩きやすさと、冬にどうしても足がないというときの歩きやすさについては、分けて考えなければならない。今回の実験は夏に行うものであり、例えば、電動カートは、夏には心地良いものかもしれないが、冬にこの形状で、寒い中、ゆっくり走っていくことに関してはどうなのかということもある。</p> <p>歩きたくなるというコンセプト自体についても、夏に思い切り歩いてもらうのか、冬は逆に、ゆっくり沿道に滞在してもらう、そこを楽しんでもらうということにも焦点を当てるのかなど、夏と冬の関係性も整理しなければ、滞在空間についても、モビリティについても、実験して終わりということになってしまうことが懸念される。例えば、冬にうまくいかなかったので、結局、導入されないという結果になると無駄になってしまう。そのようなこともしっかりと議論していかなければならない。</p>
参加者	<p>仮にモビリティを導入するとなれば、バスについて、買物公園という名前のバス停がほしい、4条のバスターミナルをもう少し買物公園に寄せてほしいというように、バスと小型のモビリティの連携のようなものを含めて議論していくということが大事であると思う。</p> <p>モビリティの導入だけではなく、そこに公共交通のバスやタクシーをどのように連携させるかということも考えていくと良い。</p> <p>エリアプラットフォームが成熟期に向かうための財源として、運営資金を獲得していくときに、モビリティは、広告収入のメディアにもなる可能性もあることから、そのようにプラットフォームの体制をモビリティの運用のニーズに結び付けていくことも含めて考えていけば、悪いものではないかも知れない。そのような中長期的な視点も入れながら議論していけると良い。</p>
座長	<p>3つのモビリティがあるが、それぞれ、狙いは全然違うものである。WHILLは、電動車いすであり、現行でも利用できるものである。電動カートについては、特に高齢者の方などが長い距離を歩けない場合の支援という性質もあり、住宅地で走っている例もある。この2つと電動キックボードは、やはり全く異なる目的があることから、その点を整理し、買物公園の中でやるべきものは何かを考える必要がある。</p> <p>また、「300メートルの壁」もあることから、それを越え、駅周辺にいる人にもう少し奥まで行ってほしいと考えた場合、滞在スポットを点在させるだけで歩く人が増えるのか。それとも、社会実験の期間中にモ</p>

	<p>ビリティを入れることによって人の移動が増えるのかということ、社会実験を通じて調べるという意義はある。</p> <p>そのような整理が十分ではなく、3つのモビリティを同じように考えてしまっていることが分かりにくい。今、買物公園における課題を解決するために、モビリティの実験が必要だということであれば、そのことをきちんと整理しなければならない。次回に向けては、その部分を整理して、もう一度提案するというところでよろしくお願ひしたい。</p>
参加者	<p>オブザーバーの方に質問したい。今、世界的に電動キックボードが排除される方向にある中、昭和通りなどを走らせることはどうなのか。先日、昭和通りを自動車で走っていた際、突然、前方の自動車が電動キックボードで走行する人を避けようと右に振れ、怖い思いをした。</p> <p>また、死亡事故のニュースなどもよく耳にするところであり、オブザーバーの警察の方に、それらを踏まえた電動キックボードに対する見解をお聞きしたい。</p>
オブザーバー	<p>道警本部の交通規制を担当している者である。</p> <p>電動キックボードに関する情勢についてになるが、電動キックボードは、日本では、まだ生まれたばかりと言っても良いモビリティである。今までになかったものが走っている状態であることから、今の話のように、前方の自動車が驚いて右に振れたということなどは、ドライバーの人たちからすれば、当然の話だと思う。</p> <p>ただ、生まれたばかりの乗り物であり、今後、これがどのように成長していくのかということがある。法の改正があり、歩道も走ることができるものや、歩道は走れないが、速度が出せるものもある。</p> <p>これからは、自動車のドライバーと電動キックボードに乗られる方の両者が、今後どのように共存していくかというのを考えていかなければならない。現状は、そういう時期であると思っている。</p>
座長	<p>電動キックボードについては、賛否両論あり、様々な難しい面がある。実際に、首都圏では、商用のサービスがサービスインしてしまっており、それと法改正とセットになり、どんどん世の中が動いているという部分もある。その中で、旭川はどうなるのかということ、まだ分からない部分も多いことから、モビリティの実験を実施すべきかどうかも含めて、次回、改めて案を出していただくこととしたい。</p> <p>社会実験の滞在空間の部分について、1条周辺、4条周辺、7条周辺で実施するという提案であるが、皆様は、その部分に違和感はないか。7条周辺においては、既に様々なことを実施してきた経験もあることから、まず、問題なく実施できるのではないかと考えるが、その辺りにつ</p>

	<p>いてはどうか。</p> <p>滞在空間については、そこで様々なことを行いながら、様々な方に関わってもらおうことがとても大事になってくる。商店街以外の方や、これまで関わったことのない方などにも入ってもらいながら、様々なチャレンジを行っていくことになる。</p> <p>それぞれが個別に行うのではなく、お互いに情報を交換しながら、全体として盛り上がっていくことができるように進めていくというイメージである。細かな場所については、今後も調整はあると思うが、おおむね3か所程度で実施していくということによろしいか。</p>
参加者	<p>社会実験の案の考え方として大事なものは、買物公園を中心に、旭川の、更にいえば道北の文化をつくる拠点になっていくということである。</p> <p>それは、日常のライフスタイルを新しくつくっていくということである。日常において、買物公園でどのように暮らすか。そこに今、足りないものはどういうものであり、例えば、朝に買物公園で気軽にコーヒーを買いに行く、昼にお弁当を食べに行くなど、1人の日常生活のタイムラインの中で、このようなことをやっていこうという絵が見えてくれば良い。生活の中で買物公園でどのようなことをするのか、買物公園を使う生活の在り方のようなものを実験で行っていくというような示し方もあると思う。</p>
参加者	<p>社会実験も含めたこれから先のことについて、シンプルに思うことは、私たちは、決してネガティブに集まっているわけではないということである。</p> <p>例えば、電動キックボードなどは市長の公約にも関係してくることから、事務局としてはトップの指示に従わなければならないことも理解している。普段から、意見を聞いていただき感謝しているが、私たちもポジティブに集まっているので、ぜひ、ここに集まっている我々の思いを酌み取っていただけるとありがたいと思う。</p>
座長	<p>オール・オア・ナッシングで、社会実験を実施するかしないかということではない。その中身の在り方をきちんと精査することが大事であり、やはり多くの方に関わっていただくということが、今回の社会実験の一つの大きなテーマである。</p> <p>様々な方に関わってもらえるような社会実験にしていく必要があることから、残り少ない時間ではあるが、しっかりとしたプランにしていく必要がある。</p> <p>未来ビジョンについても、細かな精査が必要な部分や、まだブラッシュアップできる部分も多いので、ぜひ、皆様の御協力と御理解をいただ</p>

	<p>きたい。</p> <p>また、大きな方向性として、来年の一定の期間、今までとは違う使い方をしてみる、これまでとは違う人の動きが実現できるかどうか、それにチャレンジしてみるという方向性について御理解いただきたい。</p>
事務局	<p>電動キックボードについて、市長の公約に関係しているとの御意見もあったが、公約に係る取組自体は、昨年と今年に実施したものによって終了していると考えている。</p> <p>また、現実に、市民アンケートでも反対の意見が多数を占めたことや、皆様の議論の中で、電動キックボードを買物公園の中で走らせるということに対して様々な御意見もいただいたところであり、当初は、買物公園の中での活用も検討した経過もあったが、現在は、買物公園の外を走行することとし、観光も含め、今後の可能性を検証する上で行っていきたいと考えている。</p> <p>電動キックボードについては、このような検討の経過があったということをご説明させていただく。</p>
(4) 今後のスケジュール	
事務局	<p>事務局より、今後のスケジュールについて、次のとおり説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回会議は、令和6年1月23日（火）14時からを予定 ・場所は、今回と同じ、旭川市役所総合庁舎7階大会議室Aを予定
3 閉会	